

男女共同参画社会とは「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。

私たちが日頃お世話になっている薬剤師さんは、東大和市内でも多くの女性が活躍しています。今回は、いわゆる「街の薬屋さん」、主に病院等の処方箋を扱う「調剤薬局」、「チェーン店の薬局」にそれぞれお勤めの5名の女性薬剤師さんに薬剤師になったきっかけ、日頃苦労されていること、私たち患者へのお願いなどをお聞きしてきました。

薬剤師になろうと思った理由

- ・資格を取ってみたいらどうかという家族からの薦めに応えました。
- ・父親が医者をしていて子供の頃から医療に関心がありました。
- ・母が祖父の介護で苦労していたので、医療関連の仕事がしたいと思っていました。また、薬局で患者さんと接し、役に立てるのであればやってみたいと考えました。
- ・実家が代々薬局で、小さい頃から店にいたので、当たり前のように薬剤師になりました。
- ・祖母が認知症で、母が介護をしているのを目の当たりにして、薬物治療、認知症患者さんとの関わり方など、介護する人たちの力になればと考えると、薬剤師を目指しました。



薬剤師になって良かったこと

- ・総合病院から街の薬局に転職し、子供から年配の人まで接することができ、患者さんから『とても助かりました』と言われると、役に立っていると思えてうれしいです。
- ・調剤で薬を出した後や、患者さんの症状などによって、市販薬を紹介して『良くなった』と感謝されるときなどです。
- ・継続して来局してもらい、信頼関係を実感できるようになった時はうれしいです。また、患者さん宅を訪問しての服薬指導も行ってあり、生活環境も含めた患者さんや、その家族と接することで、やりがいにつながっています。
- ・地域に密着した薬局として、ある意味24時間薬剤師といった位置づけなので、営業時間外でも電話で問い合わせがあります。日々の仕事を通して、天職だと思っています。
- ・患者さんの症状、病態が良くなった

薬剤師さんに聞いてみたべえ



「東大和市観光キャラクター うまべえ」

ているのを見ると、一緒に頑張っているような気がしてうれしいです。また、次に来局された時に、私の顔を覚えていてくれて頼って相談してくれると、治療の役に立てたと感じられうれしく思います。

**病院の休診時には
薬局に相談**

**お薬手帳が
あなたを守る**

**薬局は
一か所に**

**処方箋なしでも
気軽に相談を**

日頃苦労していること

- ・患者さんに信頼してもらえないままでは、時間がかかるので苦労しています。一度、信頼してもらえれば対応が全く違ってきます。
- ・沢山の種類の薬を飲んでいる患者さんの中には、罪悪感や劣等感のような感覚を持つ方がいるようです。無理に聞くこともできず難しいと感じています。
- ・患者さんへのシネレリック医薬品の使用では、成分、効能は同じであることを説明するのが大変です。

・認知症のある患者さんには、例えばお薬カレンダーを作って渡しています。日付に対する感覚をなくしていき、自分で薬を取り出せなかったり、対応に苦労しています。

薬局を利用する人へのお願い

- ・薬局は、処方箋を持って行って薬を出してもらったところだと思われがちですが、薬剤師は患者さんに合わせた服薬に関するアドバイスをしているので、処方箋なしでも日頃の体の不調、悩み、或いは介護のおむつ、絆創膏選びなどのレベルまで気軽に相談してください。
- ・血液検査結果等の表を持ってきていただくと、薬局でも患者さんの状態が確認でき、病院とのダブルチェックにより安心してお薬を飲んでもらえます。
- ・来局時に患者さんから聞いた症状によって薬を変えたほうがよいと判断した時は、患者さんに医師に相談するように話をしています。
- ・急な病気で病院が休みの時でも薬剤師を頼って相談して欲しいです。市販薬の紹介や、薬局製剤も対応できます。また、必要に応じ受診をお勧めしますので、安心して相談してください。
- ・国も政策として進めていますが、複数の薬局を利用していると薬剤師が全体像を把握しづらいので、できれば一か所の「かかりつけ薬局」を決めて利用して欲しいです。
- ・「かかりつけ薬剤師」という制度知っておいてください。この制度では、専属の薬剤師を指名することができます。薬以外の健康相談にも電話で24時間対応しています。
- ・代理人の方だと、患者さんの様子がイメージしづらいので、服薬時にむせている、シートから出しづらい



といった様子を教えてもらえると、薬の剤形変更、一包化調剤などで、できるだけ患者さん自身が飲みやすいサポートをすることが出来ます。

お薬手帳について

- ・半数以上の患者さんは持ってこられていますが、持っていない患者さんも多く、服薬している他の薬の確認ができないと困ってしまいます。
- ・お薬手帳は薬剤師や医師などの第三者が見て初めて役に立つものです。自身を確認するためのものと誤解している患者さんもいますが、お薬手帳で薬歴を確認するのは薬剤師にとって大変重要な役割です。
- ・お薬手帳は薬を継続してどのくらい服用しているかを確認するためにも重要な記録です。同じ薬でもシールを受け取ったら必ずお薬手帳に貼ってください。
- ・スマートフォンでお薬手帳を管理できるアプリケーションに対応している薬局もあります。利用してみたい方は薬局にお尋ねください。



感想

今回の取材を通して薬剤師さんの日頃のご苦労が伝わってきました。そして、私たち患者が薬剤師さんに自分の体調、どのような薬を飲んでいるのかといった話をしていることが、その原因の一つとなっていると感じました。薬剤師さんのお話にもあるように、私たち患者はできるだけ一か所の薬局を決めておくことにより、薬剤師さんの力がより発揮できるばかりではなく、私たち患者にも大きなメリットがあるということが分かりました。(編集委員・佐藤有亮)



学校の先生は身近な存在ですが、謎の多い存在にも感じる場合があります。その理由は、教員採用試験、長時間労働、部活の顧問のように、先生になる時も、なってからも大変負担の多い仕事と言えますが、それでも、日本国中には先生を目指す人が多く

いるからです。どうして、わざわざ忙しい先生という職業を選択するのか。この疑問を解決するために、今回は先生になろうと思った理由、きっかけなどを、実際に仕事をしている東大和の中学校の女性の先生にインタビューをしました。



～中学校の先生への質問～

- ① 先生になろうと思った理由・きっかけ
- ② 先生に実際になってみて、現状と先生になる前に思い描いていた教師像、または仕事内容にギャップがあったと感じたか。
- ③ 目標・モットー



理科をどうにかしたい！

～基礎は「単位」です～



20代教師

- ① 理数系の教科が好きだったことから、大学では物理学を専攻していたのですが、理系の女性の少なさを感じました。その時、マイナスな感じやひっかりを抱いたのが、教師を目指したきっかけです。
- ② 最初は高校の教師を目指していました。中学校の教師になって行事が多いと感じています。
- ③ 理科をどうにかしたい！理科を苦手とする生徒は多く、その子たちのほとんどは基礎ができていません。理科はとにかく「単位」を理解することです。そのため、まずは基礎をしっかりと教えることを頑張っています。



40代教師

- ① 小さい頃から先生になろうと漠然と考えていました。大学の教職課程で、中学校か高校の先生を選択しなければならなかったのです。その時、自分の中で「中学時代は学校の中が大変で、先生方が非常に苦労されている姿しかなかったので、自分が教師になって中学校に戻った時には何かもう少し違う学校がつかれるのでは」と思い、中学校の教員を目指しました。
- ② 思ったより事務作業が多いという印象です。また、教科を教えるだけでなく、教員の「人間性」が非常に大切だと感じました。
- ③ 「居心地」の良い学校を作りたいです。手を焼く子がいますけど、その子と「ちょっとでも話ができる」とか、「少しでも先生とつながっている」ような学校を作りたいです。



「居心地」の良い学校を作りたい

～感想～

今回のインタビューを通じて、冒頭に述べた疑問の解決に一歩近づいたと思います。先生方によって先生になろうと思った理由は様々でしたが、共通点がありました。それはどの先生も、自身の「信念」を持って仕事に望んでいるということです。この信念が先生の原動力のひとつなのかなと解釈しました。

30代教師

- ① 学生の頃、バスケの練習をしていた時、足をねんざしてしまい、そこから「身体をしっかり整えないと自分のしたいことはできない」と思いました。そして、このことを子どもたちにも教えたいと思ったことがきっかけです。
- ② もともと学生の頃、小学校の教員になろうと思っていました。中学校の教員になり、思い描いていたのとは、ガラッと変わりましたが、生徒たちと大人びた会話ができるのが実感でき、楽しいと思っています。
- ③ 仕事に慣れて緊張感をなくすことのないように、常に新鮮な気持ちで子どもたちに接していきたいです。



健康第一！



50代教師

- ① 子どもの時から自分より小さい子に好かれ面倒を見るのが好きでした。その姿を見ていた母から学校の先生になればと言われました。そして幼稚園の時から、学校の先生か、幼稚園の先生になろうかと思っていました。
- ② 小さい頃に思い描いていたものよりは大変忙しいと感じました。最初のころは、通勤途中のバスの中などで板書案を考えてメモしたり、家でも朝起きてから出勤するまでに、ノートにまとめたりしていました。性格的に人前で話すのが苦手で、最初は大変だと感じていましたが、徐々に慣れてきました。
- ③ 「ケセラセラ」一生懸命やれば、何とかかなるさ！

♪ Que sera sera ♪



インタビューは僅かな時間でしたが、人生経験豊富な先生方との会話はとても貴重な時間でした。今回、協力してくださった皆さん、本当にありがとうございました。私たちが書いた記事が少しでも多くの人に読まれ、面白い、タメになったと思ってもらえれば幸いです。(編集委員・黒崎くるみ)